
光の貴方へ、影の貴方へ、何時、眼鏡を外してくれますか？

雪女

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光の貴方へ、影の貴方へ、何時、眼鏡を外してくれますか？

【Nコード】

N4103D

【作者名】

雪女

【あらすじ】

新蘭前提コ蘭です。群馬県の山奥の秘境温泉に小五郎が依頼を受けた為訪れ、いつもの如くコナン君が大活躍でめでたしめでたしの筈が・・・?!

月光と共に・・・

「松尾さん・・・犯人はあなたです。」

月光と共に・・・

今日も俺はおっちゃんを時計型麻醉銃で眠らせて、変声期でおっちゃんの声で推理ショーを披露した。

これで犯人もいつものごとくお縄についてめでたしめでたし・・・

「ちっ！くそっお！！」

につ逃げられたっ！？

不意をつかれた俺は追いかけることしかできなかった。

此処は群馬県の山奥の秘境温泉。だいぶ前に蘭が警察を呼んだがまだ来ない。

（群馬ってことはあのへっぽこかよ・・・）

それに、今着ている浴衣は子供用が無かったからって、大人用で、ものすごく走りにくい。

早く蹴るもの見つけねーと、逃げられちまう。

・・・！！

「いつけえー！！！！」

ドガッッ バッシャー

ファンファンファンファン

「きつ、君！あつ、毛利さんの所のコナン君じゃないかい。はっ犯人は??」

「バケツにつまずいて気絶してるよ。」

子供の姿になって、これまでどれだけの人に嘘を付いてきただろうと思うと胸が締め付けられるように苦しくなる。

特に・・・蘭の前にいるときはいつも・・・。

「松尾竜太！殺人の現行犯として逮捕するっつ。」

犯人は伸びたままパトカーに乘せられた。

「じゃ、コナン君、このバケツを元の所に戻して置いてくれるかい。」

「はい。」

子供言葉が板についている自分に嘲笑する。これも母さんのお蔭か・・・。

「コナンくん!」

「あつ、蘭姉ちゃん!!」

「もう、コナン君だったら!!勝手に一人で行って!!ダメでしょう!危ないんだから!」

「へへへ・・・ゴメンなさい。」

ニコッ、と蘭は注を促した後に必ず微笑む。
母親の様に・・・ハアッ。

ふと、行く手に自動販売機。

「ねえ、蘭姉ちゃん、喉乾いたあー。」

「仕方ないわねえ。まっ、犯人が捕まったのはコナン君のお陰でもあるし。」

そう言つて、蘭は俺抱き上げた。

むっ、胸があつつVV

「どれがいい？つて、一種類しか無いのねえ。」

見るとこの温泉地の特産と思われるジュースが一種類のみ販売されていた。

しかも見た感じ、美味しそうとは言えない代物だった。

しかも高い。

「・・・これでいい？」

「うん！いいよ。」

チャリンチャリン　ピツ　ガタンタン

「はいっ！お疲れ様。・・・おいしくなかったらごめんね。」

「うん、ありがとう！」

ゴック、ゴック

グツまっず。そういえばまた変なもん蹴っちまったな。水入りバケツ・・・。

「ねえ、コナン君・・・。」

「な、に？蘭姉ちゃん。」

「・・・うん、なんでもない。」

「どうしたの？」

こんな時はいつつもやけてしまう。必ず、恥ずかしがってはぐらかす蘭に。

「もしかして、新一兄ちゃんのこと？？」

『違うわよも、コナン君ったら』

と、いつも同じことを言ってはぐらかす蘭が可愛くて、愛らしい。

「・・・うん・・・。」

えっ、蘭？！

ドクン

何？！いつ、今の・・・

「どうしたの？コナン君？」

ドクン

くっ 苦しい・・・

ドクン

カランと音を立てて、ジュースの缶を落としてしまった。

やばいつ、このままでは、蘭にばれちまうっ・・・。

ドクン

「だっ、大丈夫???」

この場合は、、逃げるし、、ねえ、、。

「ちよっと、コナン君!! 待ちなさい!!」

森の中へと逃走した。

体から煙が出てきやがった。

もう、、だめだ、、動けねえ、、。

「コナンくん！コナンくん！」

もう、、追いついて、、来やがった、、。

「私を・・・1人に・・・しないで・・・よ・・・。ねえ、出てきて・・・コナン君・・・。」

すぐ、、そばまで、、来ているのが、、分かった、、。

泣いて、、いるのが、、声で、、分かった、、。

俺は、、どうなっても、、良いから、、あいつには、、、
アイツにだけは、、、

「コナン君！！！」

「来るなっ、、、蘭っ！！来るんじゃ、、、無いつ、、、！！！」

「どうしたのコナン君？？大丈夫なの？？？」

「来るなああっ蘭！！！」

そう言って立ち上がろうとしたが、、俺の小さな体は、、蘭に
捕まえられていた。

「だめよっ！！こんな体で何処にも行かせない！！！」

蘭に俺の背中を抱えられていた。

「はなせつつ！！くそおっ！！！」

「だめえええつつつ！！！！！」

ドクン

シュー

もう、、ダメだ、、元に、、戻っちまう、、。

月が雲に隠れて真っ暗になった時だった・・・。

「ウオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ」

「コナン君!!!!!!!!!!!!!!」

雲が切れた。

「しっ、新一???!!!!」

「よっ、よお、蘭・・・。」

蘭は、涙を流すだけで何も言わない。幾らなんでも・・・自分の腕の中で人がでかくなりやあ、不思議だよなあ・・・。

何も言わねえってことは・・・俺に言えってことかよ・・・。

「・・・ったく・・・分かったよ。言っよ・・・。・・・今まで・・・ごめんな・・・騙してて・・・。・・・でも、他に手が無かったんだ・・・。・・・蘭、今まで本当に・・・悪かった・・・。・・・コナンは・・・俺の仮の姿なんだ・・・。」

全てを話さざる終えなかった。

それでも、蘭に、もう1つ・・・本声で・・・。

「これからも・・・今までと同じように接してくれ・・・後・・・自分の胸を左手の親指で差しながら言った。

「誰にも言わないでくれるか・・・?俺と・・・蘭の・・・イノチ

に関わることだから・・・。」

蘭は涙を拭いて、俺の目を見て頷いてくれた。あの頃のように・・・。
それでも蘭の瞳からは大粒の涙が零れ落ちていた。

俺の、1番言いたかったことを言うために・・・蘭の頭を抱き寄せ
て・・・

「蘭・・・ずっと・・・見てるから・・・ずっと・・・愛してるか
ら・・・だから・・・俺のこと・・・信じてくれ・・・。」

俺の胸の中で蘭は頷いてくれた。

「ほらっ、前にも言っただろ？お前に泣かれると困るって・・・。
指で、涙を拭いてやると、蘭は笑って言った。

「うんっ!!」

／／／／／

蘭が美人で、可愛いことは知っていた。知ってたつもりだった。だ
けど、こんなに・・・

ドクン

「新一?!」

シュー

やべっ、もうタイムリミットかよ・・・もう少し・・・

「新一!!大丈夫なの??新一!!」

ドクン

「くっ、、先に、、宿に、、戻ってくれ、、。コナンに戻
ったら、、すぐ行くから、、なっ?蘭。」

「でっ、でも、新一は・・・?」

「俺は大丈夫だから、、行ってくれ、、蘭。」
ドクン

「だっ、大丈夫なわけ無いでしょ!!」

「さっき、、信じてくれるって言ったのは、、ウソだったのか、、？」

「それはっ……それとこれとは別よー!」

「悪い、、蘭、、行ってくれ、、。」

「イヤアツツ!」

「これ以上!……俺の情けね」と、、見ないでくれよ、、。

「

「そっそんなことナイよ……新一……。」

ドクン

シュ-

「蘭、、お願いだ、、行ってくれえ、、。」

「新一っ!……でっ、でも「行けって言ってるだろ!」!」

ドクン

「つつっ、くっ」

蘭は走って旅館の方へ行った。

悪いな・・・蘭・・・。お前にだけは・・・もう・・・俺の・・・無
様な姿は・・・見られたくねえんだよ・・・。

旅館に戻ると、蘭はロビーで俺を待っていてくれた。

「お帰り・・・コッ、コナン君・・・お疲れ、様・・・お父さん
麻雀してるから部屋に行こっか・・・。」

「うっ、うん・・・。」

「ねえ・・・本当に・・・新一なの・・・??」

うづく

月光と共に・・・（後書き）

4年前に書いたので文体が今と激しく違いますよこんには、はじめまして雪女です。

でもあの頃はこれで一生懸命書いてたんだあと、しみじみ思いながら読み返しました。只今大絶賛スランプ中ですOrz・・・少しでも多くの方に読んでいただいて、感想が聞けたらなあと思って投稿させてもらいました。

近々続きも投稿予定なのでそちらも読んでくれると嬉しいです。続

きは『^{スイッチ}眼鏡を外して・・・』です。

でわっつww乱文失礼致しました。雪女

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4103d/>

光の貴方へ、影の貴方へ、何時、眼鏡を外してくれますか？

2010年10月18日08時18分発行